

愛知 奇聞
明治 元一 坊



橋 臺 画

後篇 招 延 堂 梓



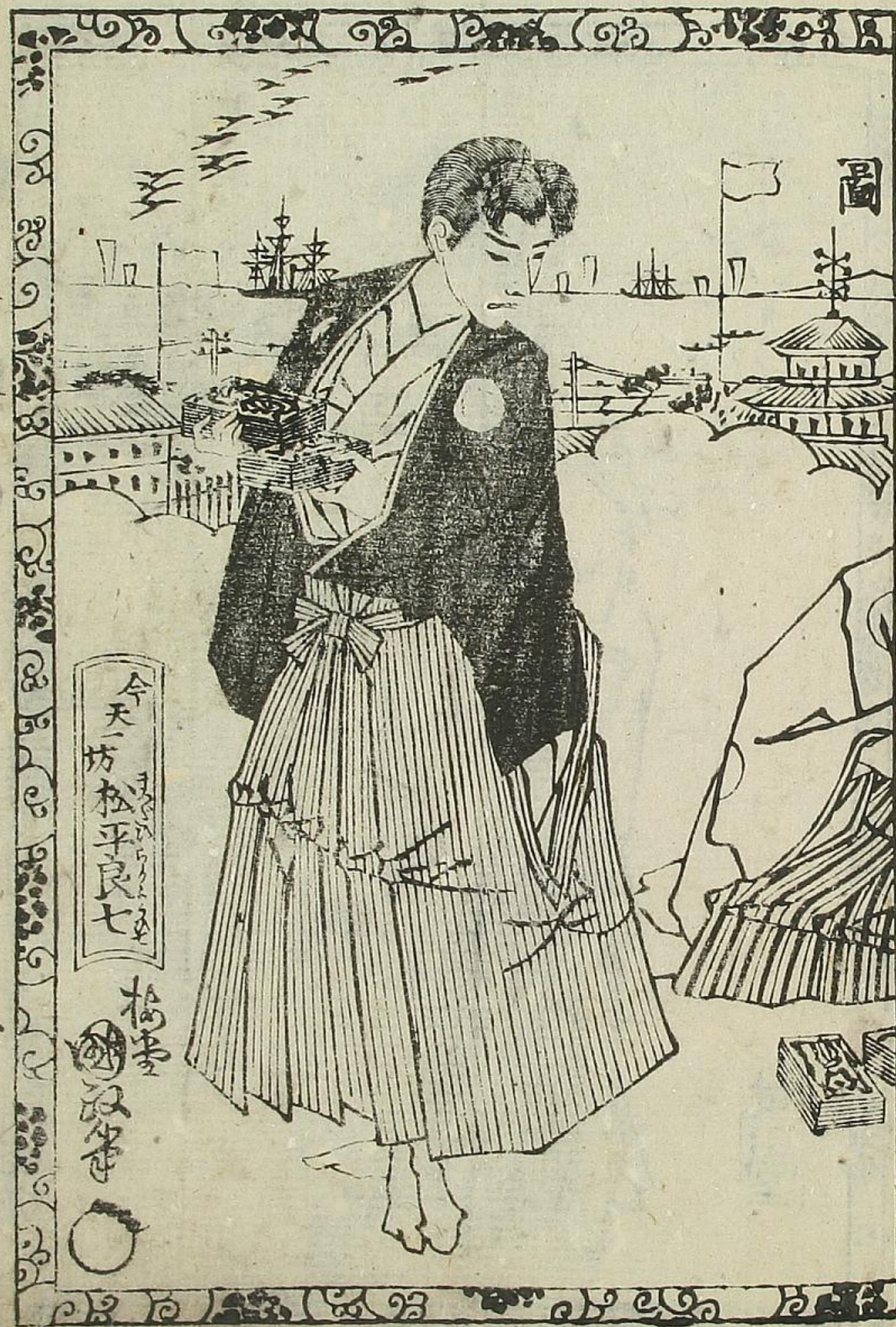
A5.87
3

變明 治天坊後編序

浮雲小暫一影を隠せやも終ふ晴は浦の月曇りたまき世々鳥羽玉の
 闇の夜半とや誤りけんよふおのの巧計て五箱といふ大金を杜騙り
 取りんと為しなれどおど久方の天の網疎くして洩さぬ因果應報汝よいで
 汝も還る廻る車の後手も御用とつる縲洩の繩も曳くと法庭の耻辱不義の
 富貴も暫くく浮べる雲の娼婦觀樂も夢の如く醒め果て身も纏ひつる
 綾羅錦繡葵の故の羽織袴も忽はちのりる村色の鶉衣とたまきの果後の世までも
 今世の天坊と悪名を流し徳川の名をうり彼の松平良七の事跡を詳記する盛衰
 花笠文京がものやまゝの筆の文あや怪しく世の人の眼ふらりて賣高の殊の外
 多の書肆が二催促ふ斯ものせとかのまふ示しをまゝと片言ほほりの走り書と
 まるゝのい

繪入自由新聞社の小僧 鴻南迂人記

48-8484

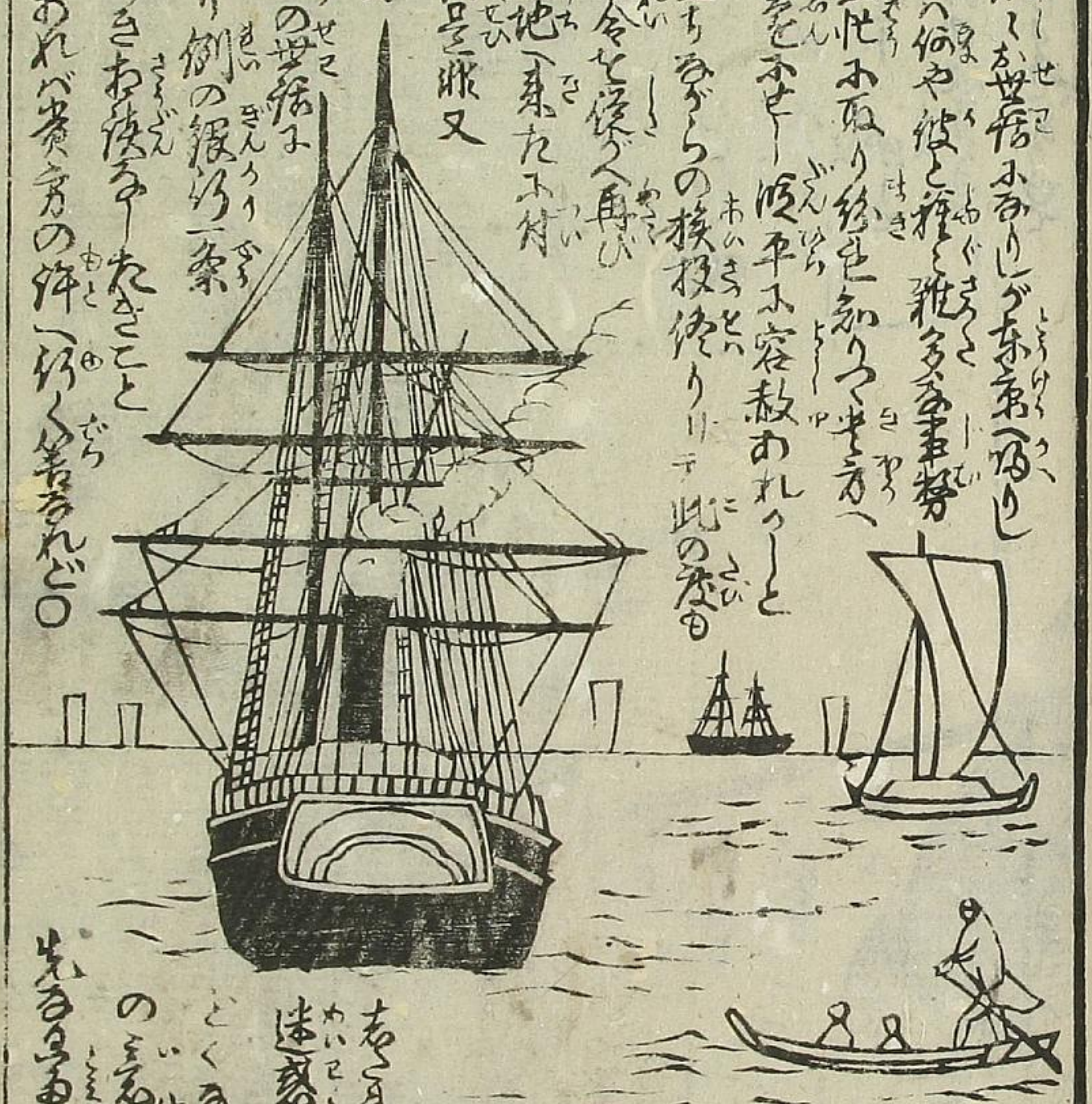


天明

富田町の
 旅人若田系何系方(止和)
 紙差方の様子と内々耳合せて
 舟とも知らず紙差の主人全十舟の
 慶承の一羽を東京へ贈り紙が
 来さざりて更し何の内は由も
 どうしことごとく日と小掛り慶承方より
 便りの有るを待ちて居る程のら
 或日不承其後所不慶承方使若と
 伴ひ来掛り一ハタと出違ひ是ハ
 前と吃驚して声とをれば此方由慶承
 悪いところを出違ひと名を替と
 あらぬ作にて紙差の由さ人う過日ハ



永く世に
 彼何や彼と推し難多る事勢
 繁忙を取り終色知りつて更方
 疎をせず一返平小容赦われりと
 立ちあがらの旗投後りリ此の夜も
 夜合を後へ再び
 当地へ来た小舟
 といはれ又
 舟の世に
 舟の銀の糸
 ありさお後をたこと
 由あれは貴方の件一はく善かれど



〇おまの原火急
 小く船ふきを
 左をそくく知
 志をい変若し押掛万
 迷惑をうことあふ元
 とくありと名を家合
 の名又上た山並の
 先るる由所の由田とる



一、か今ハ
 子速書方の
 件、三郎令を
 一人を介して又
 由、厄介なる様
 り、と、言、巧、ま
 り、色、や、と、夫、と、曉
 らぬ紙、ま、茶、と、く
 頭、を、下、げ、一、決、と、
 その、口、を、さ、め、お、い
 及び、中、を、ぬ、く、と、

村
 外
 春を飾る
 花更衣
 蒙
 小袖の上
 流
 南の
 中ん
 の、後、付
 高橋酒
 小の、
 冠
 口



資、金、の、
 と、始、り、
 八、百、を、
 来、去、り、
 大、坂、の
 大、坂、の

金の、下、に、と、今、分、に、
 後、を、下、付、さ、す、ま、
 中、の、日、の、二、三、も、
 蒙、く、約、束、し、て、
 送、金、を、さ、す、
 お、慶、を、さ、す、
 由、り、内、と、ま、ま、
 る、れ、い、尚、念、の、
 轆、八、程、と、
 ん、と、飲、ん、で、
 約、さ、す、と、
 王、次



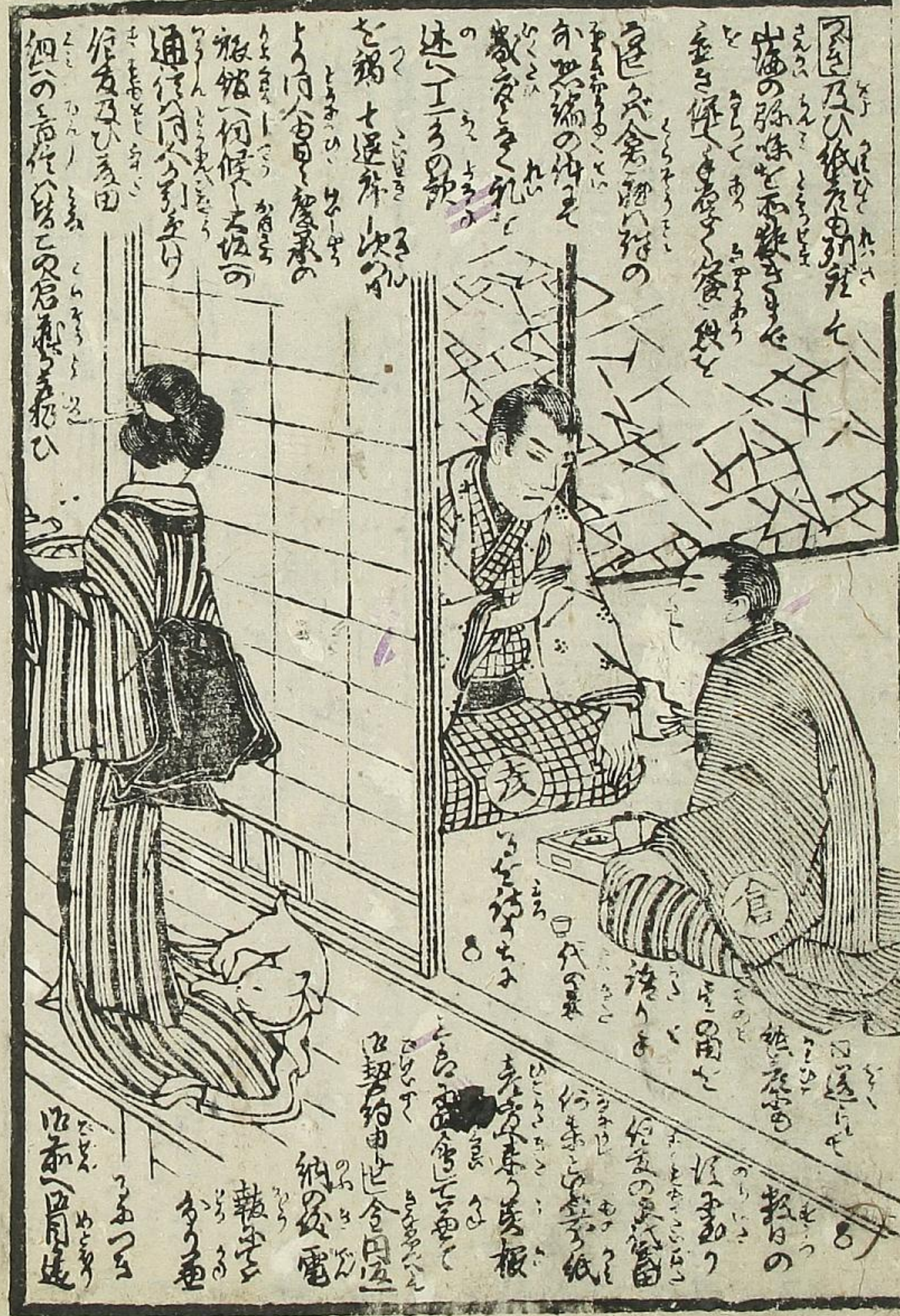
雷
 雷の聲を聞く
 雷の聲を聞く
 雷の聲を聞く
 雷の聲を聞く

その日は...
 料金を...
 料金を...
 料金を...



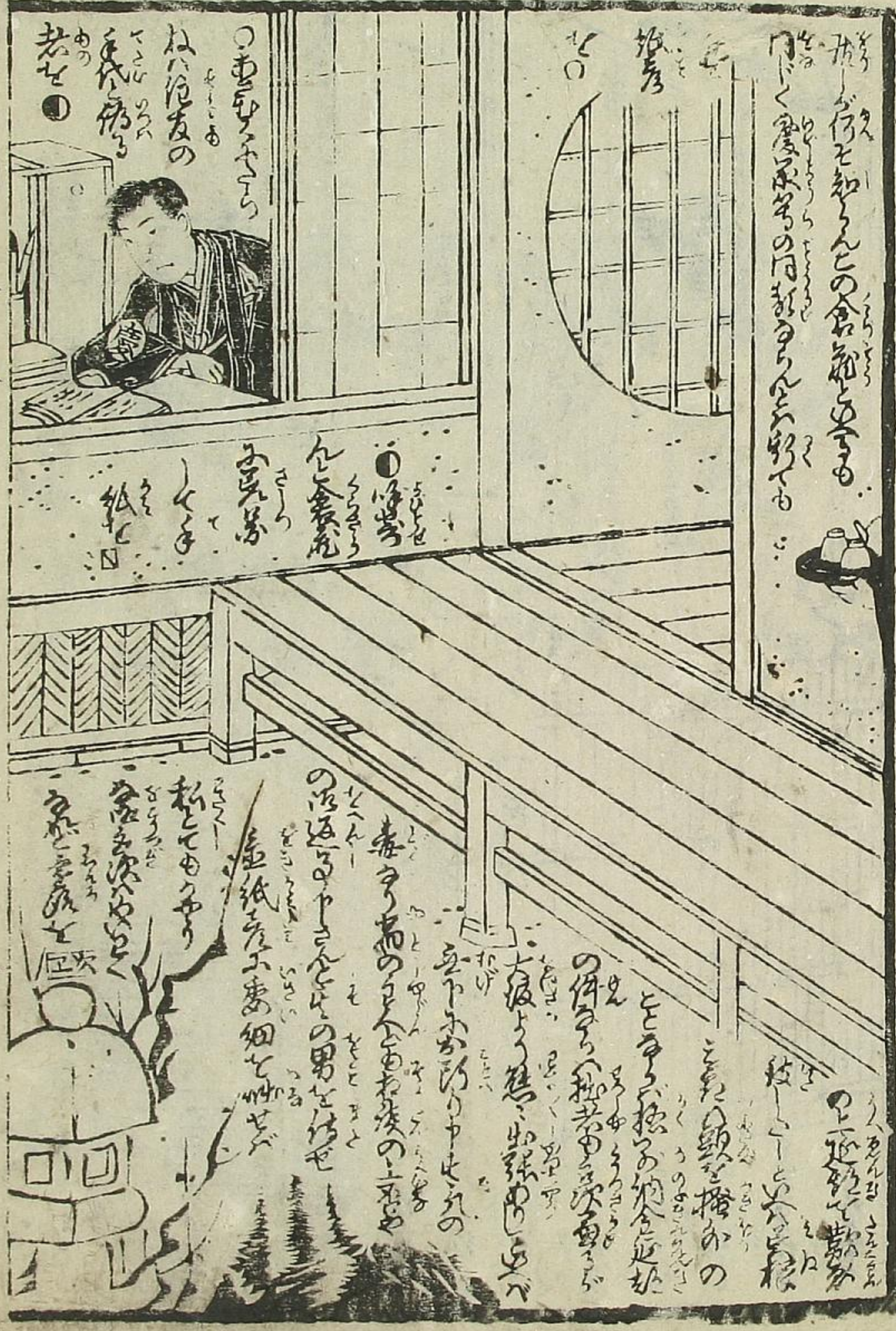
雷
 雷の聲を聞く
 雷の聲を聞く
 雷の聲を聞く

雷の聲を聞く
 雷の聲を聞く
 雷の聲を聞く
 雷の聲を聞く



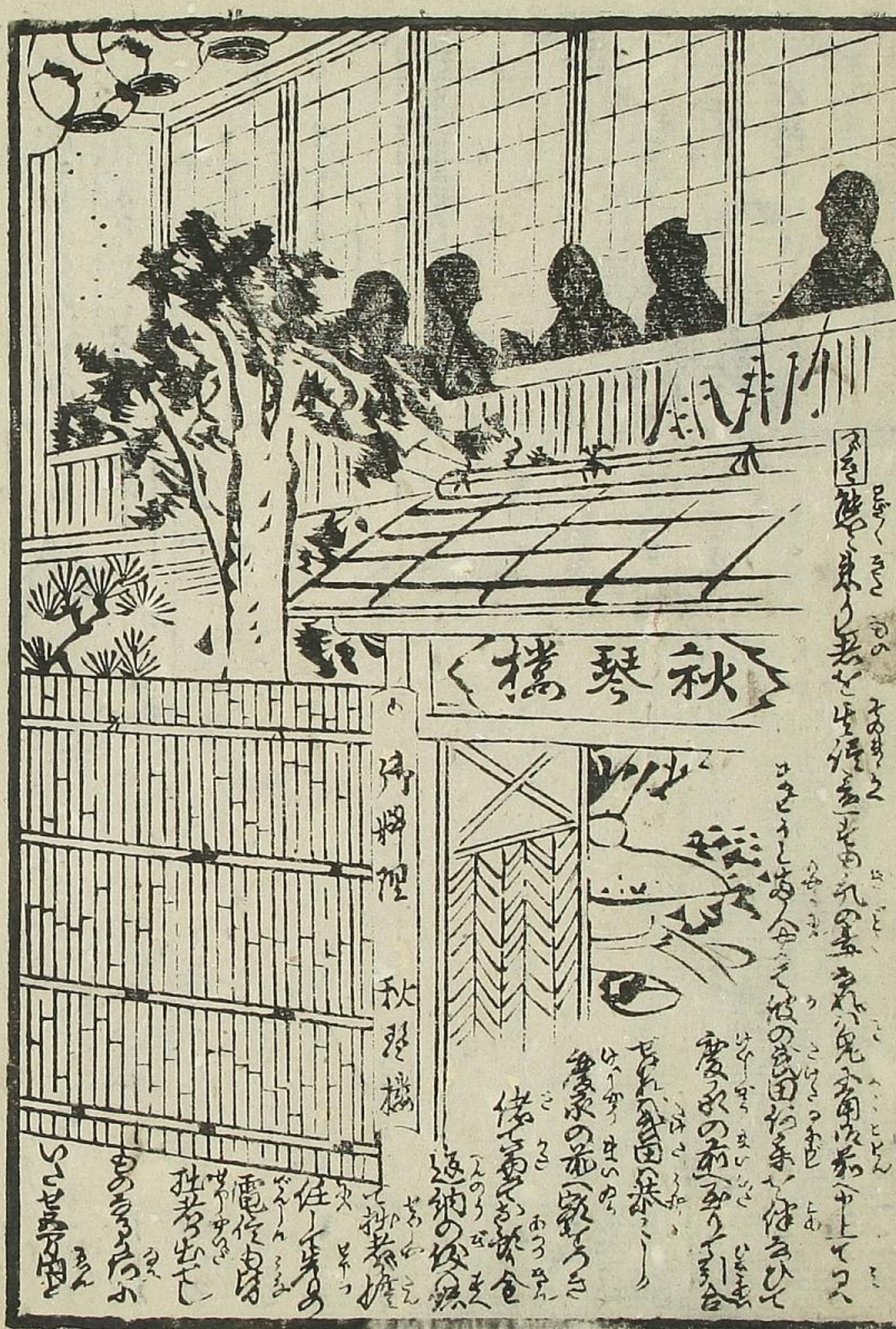
乃以依...
 出...
 通...
 作...
 細...

信...
 納...
 報...
 水...



乃以依...
 出...
 通...
 作...
 細...

信...
 納...
 報...
 水...



秋琴樓

秋琴樓

此の世に
 生れし者
 其の世に
 死すべし
 其の世に
 生れし者
 其の世に
 死すべし



秋の夜更け
 月影の如く
 思ふ人の心
 遠くを照らす

任じし身
 電位も
 狂者出で
 世の世に
 生れし者

010190513489

